

トネリバヒトリボラン

—利根川 220km 単独分割走—

Tone River 220km Single Revolving Run

多摩川や荒川は走ったので、大型連休を前に今度は利根川と思い立ってしまった。中流のJR 宇都宮線栗橋駅（埼玉県）から河口まで 130km を四回で走ること。2019年4月20日から週末3回でJR 成田線香取駅（千葉県）まで走ったところでさらに欲が出て、上流にも挑戦することに。群馬県のJR 上越線渋川駅から栗橋までを続く3回でつなぎ、予定していた7週目の6月2日が急なハワイ出張の帰国日となったため、翌日に代休を取り、銚子河口の銚子ポートタワーまで、天候にも恵まれて、梅雨入り前に完走。二区と三区では脚が痙ったが、毎回四～五時間かけて約30km、七回リボ払いで総計220km相当。熊谷付近など最寄り駅が川から遠いところもあり、完全な一筆書きではないが、埼玉県、千葉県、関東平野の大きさを実感し、両県の地勢を見聞（図1）。

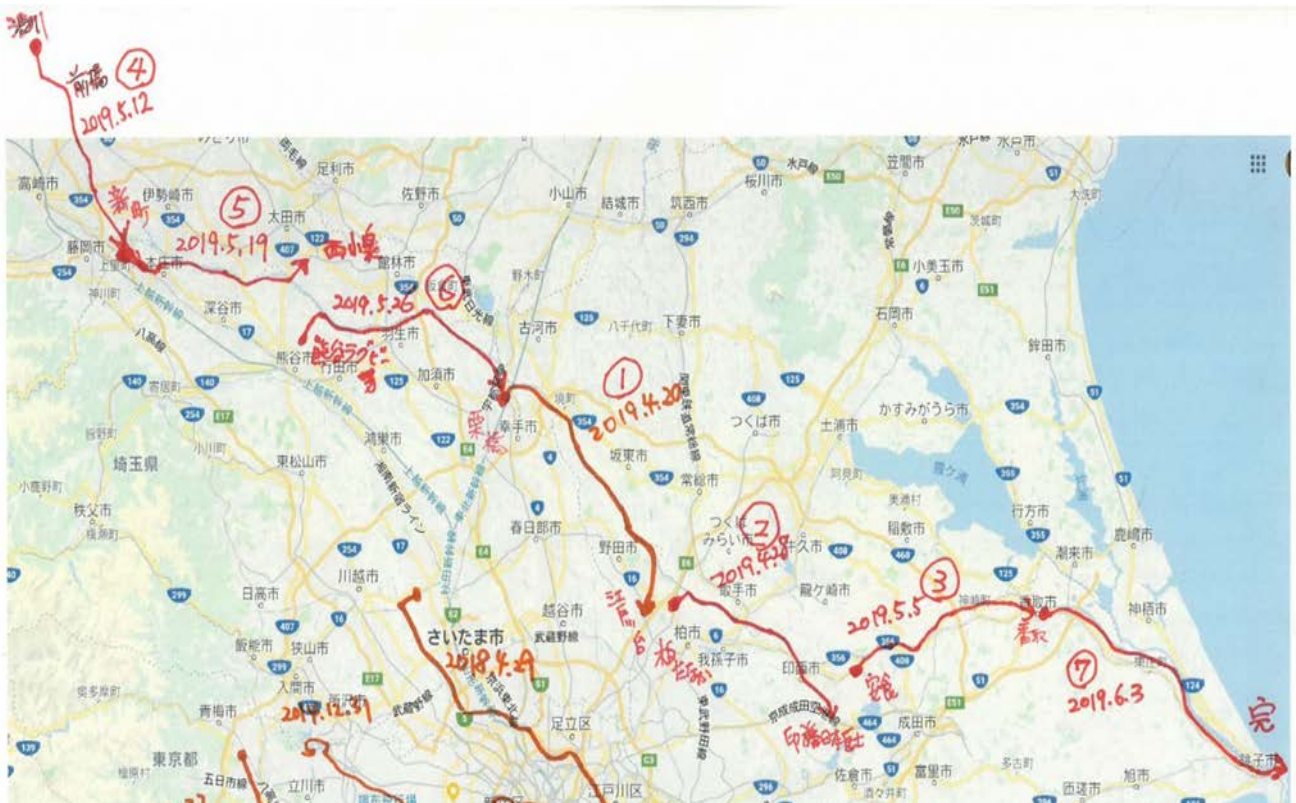


図1. 渋川-銚子河口の七区間 220km、走行記録。

以下、体験記です。よろしければお付き合いください。

(1) 出発点となる四区では渋川駅から利根川沿いのサイクリングロードに出てすぐ、朝食前の不良カラスにしつこくつきまどわれた。走っている目前を右手上方から回り込んで左手のフェンスに止まり、通り過ぎすとまた同じことを5回も繰り返された。さすがに危険を感じ、大声で恫喝してなんとか追い払った。背中リュックのおにぎりを狙ってきたのか、怪しい爺さんをからかってやろうとしたのか？



(2) 前橋では一際高い建物が偉容（異様？）を誇っていた。群馬県庁とのこと。利根川の上流から中流は土手にサイクリングコースが比較的良く整備されており、多くのサイクリストとすれ違ったが、最下流は土手を建設中でほとんど道路を走った。利根川右岸には烏川などが合流するところがあり、うっかり行きすぎて橋のあるところまで戻るはめになったことも。江戸川が利根川から分流していることも初めて知った。



(3) 中流にはグライダーやラジコン飛行機を楽しむグループも多く、成田近辺では着陸機がつぎつぎと頭上を降りて行った。雉や鷺の姿や「マムシに注意」の立て看も散見。

(4) 五区の上がりには利根川を渡って、東武小泉線の西小泉駅へ。大泉町はパナソニックや SUBARU の大工場があり、人口4万人のうち二割が外国人（ブラジルが半分、ついでペルー、ネパール、フィリピン）だとか。異国感満載。20年後の日本は全国こんな感じになるのかも。駅前のインドレストランで注文した餃子は、怒り出す客がいてもおかしくないほど待たされたが、ジューシーで絶品だった。



(5) 多摩川や荒川と違って、7回のうち中流/下流の5回は、不思議なことに日曜でもジョギングしている人には全く遭遇しなかった。利根川を無駄走る馬鹿はいないようだ。そのせいか、六区の羽生スカイスポーツ公園付近で、家のよたよた走りを遠くから連射された。地元の写真愛好家の方でいろんな写真展に出品して賞をもらっているとのこと。利根川沿いを怪しい格好で走って居る奴は珍しいので撮らせてもらったとか。でも、被写体が粗末すぎるので、今回は受賞は無理と想われる。





(6) 利根川沿いの里程標は 500m ごとにあり、五区の本庄市の烏川との合流地点 (184km) までであったが、その上流では確認できなかった。土手道の管理状況も行政区が変わるとまちまちだった。毎回走り終えたところでのビールを楽しみに走ったが、最終回は河口の銚子ポートタワーからの眺望を楽しみ、そそくさと帰宅 (徘徊老人)。

